**わくわく聖書セミナー　第9回　「キリストの誕生」**

**【キリスト教の始まり】**

今回から新約聖書に入ります。新約聖書の最初にあるのは、四つの福音書、マタイ，マルコ、ルカ、ヨハネによって書かれたものです。**「福音」とは文字通り「よい知らせ」（グッド・ニュース）です。**福音書はイエス・キリストの生涯を描きます。イエスは真理を教えたり、奇跡を行いましたが、ただそれだけではありません。

イエス・キリストは神！　**神が人となってこの世に来られた！　これが福音です。**グッド・ニュースなのです。

ここまで8か月間、私たちは旧約聖書の神がいかなる神であるかを学んできました。そこで見た神は、人を愛し人の罪のために痛む神でした。痛みつつも預言者を遣わして、世界を救うことをあきらめない神でした。その神が世界を愛するあまり、とうとう自分から歴史の中に登場してしまい、この世界に訪れたのでした。

かつてアブラハムに「地上のすべての民族はあなたによって祝福される」（創世記１２：３）と誓った神の言葉が思い出されます。

**【四つの福音書】**

四つの福音書があることは不思議なように思えます。ものごとを複雑にしているようにも思えます。しかし、もし誰かが新しい宗教を作ろうとするなら、最初から唯一絶対の経典を作るでしょう。けれども創作でなく事実であるなら、複数の証言があるのは好ましいことであり、一つの証言と別の証言にずれがあり、また視点の違いがあるのは自然なことでもあります。

四つの福音書のうち、マタイ、マルコ、ルカは「共観福音書」と呼ばれ、ヨハネは少し視点が違います。それぞれ目的や対象が異なります。中でもマルコがもっとも古く、ヨハネは一番最後に書かれたと言われています。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **マタイ** | **マルコ** | **ルカ** | **ヨハネ** |
| **書いた人** | 使徒であり取税人マタイ | バルナバの同労者、後にペテロに仕えたマルコ | パウロに同行した医者ルカ。独自の調査に基づく。 | 使徒ヨハネ |
| **直接的対象** | ユダヤ人 | 異邦人（ローマ人） | 異邦人（ギリシャ人） | 異邦人クリスチャン |
| **イエスの描き方** | 王、メシア | しもべ | 人の子、救い主 | 神の子 |
|  |  |  |  |  |

**【神の国の福音】**

「ヨハネが捕らえられて後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べて言われた。『時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。』」（マルコ１：１４，１５）

　これがイエスの第一声です。**福音とは何かがよく現れています。それは新しい時代が始まったという事実の宣言です。**「神の国」というのは「神の支配」と考えるとよいでしょう。

　「神の支配」はその支配を受け入れた者たちの中に既に始まっています。「神の国」はやがて世界を覆いつくすことになります。「神の国」が始まったのはイエスがこの世界に最初に来たときです。そして「神の国」が完成するのはイエスがもう一度来る再臨のときです。

私たちはその狭間の時代に生きています。

**【奇跡の問題】**

　福音書には多くの奇跡が登場します。現代人にとっては、この奇跡がつまずきになることが多いでしょう。奇跡の典型的なものとしてマルコ福音書5章１～20節を読みましょう。

1. 悪霊は人を神から遠ざけようとします。（５：７）
2. 悪霊は他の人との交わりを困難にします。（５：３）
3. 悪霊は自分を愛せなくします。（５：５）

悪霊の支配は、罪の力の支配です。そして人はその支配に自分の力で勝つことができません。神の支配、イエスの支配の下に移るときのみ罪の支配から脱することができるのです。

長血の女の奇跡（病のいやし）、少女のよみがえりの奇跡も、神の支配へ移されることだと考えることが大切です。**神の奇跡は愛と憐みが動機であり、神の国、神の支配の現れです。**

**【処女降誕】**

　イエスが処女から産まれたということも、つまずきになるかもしれません。しかし神がこの世界に人となって現れた不思議に比べたら、大きな問題にはならないでしょう。科学的に証明しようとすることは意味がありません。大切なのは科学的に「いかにして」ではなく、「なぜ」です。神は「なぜ」人になったのか、次回はこの大切な問題に取り組みます。

次回はいよいよ聖書の中心、十字架と復活に入ります。マルコ福音書15章を読んでおいてください。

「聖書は物語る」（大頭　眞一著）より